

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部
学年(出発時)	4年
大学名	Leipzig 大学
国	Germany
留学期間	2018年 9月 4日 ~ 2019年 7月 18日
派遣先での身分	

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
9:00	
10:00	授業
11:00	授業
12:00	授業
13:00	学食で昼食
14:00	
15:00	図書館で自習
16:00	図書館で自習
17:00	
18:00	タンDEM
19:00	タンDEM
20:00	
21:00	帰宅
22:00	
23:00	
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
ヨーロッパ法	2		ドイツ語	講義形式、レポート
ヨーロッパ政治学	2		ドイツ語	講義形式、レポート
ドイツ語	2		ドイツ語	小教室、口答試験、筆記試験

大学のサポート	
チューターの有無	有り
チューターのサポート内容	ビザ申請、住民申請、保険申請等初期の手伝い
語学コースの有無	有り
コース名、料金、期間等	ドイツ語語学コースB1以上

生活	
住居のタイプ	大学寮
住居の名前	Johanness-R-.Becher-Strasse 7
部屋タイプ	WG
ルームメイト(国籍)	ヴェトナム人
室内設備	机、ベット、棚
共用施設	シャワー、トイレ、キッチン
インターネット設備	有り
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	路面電車15分
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	学生ビザ
Visa申請先	Ausländer Behörde
Visa取得にかかった日数	3ヶ月
Visa取得にかかった費用	100ユーロ
Visa取得方法、提出書類等	住民登録、保険申請を行い、外国人局よりSparkasseへの閉鎖口座申請書類をもらった後、閉鎖口座を作る。その後、すべての書類とパスポートを持って外国人局に向かう。待ち時間は1～2時間ほど。外国人局職員は英語が可能な人もいるが、人によってはドイツ語以外使わない人も要るので注意が必要。また、職員によって必要書類がとなるのでそこも公式HPで必ず確認が必要。
留学先大学の最寄り空港までの経路	フランクフルト空港からはICEで3時間ほど
渡航費用	8万円
ピックアップサービスの有無	無

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	有り
有る場合、その理由	ライプツィヒ大学の募集が9月渡航が中心だった為
就職活動開始時期	就活中
帰国後の進路	就職

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1ユーロ＝130～120ユーロ
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	月90ユーロ前後
学費(教科書代や語学コース授業料等)	半年210ユーロ
宿舍費(月額)	210ユーロ
光熱費(月額)	無
食費(月額)	100～200ユーロ前後
その他	各地への旅行代
留学期間中にかかった費用の合計	100～120万前後

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

本学において学ぶことが難しい、ヨーロッパ法、ヨーロッパ政治学について学ぶことができたのは非常に良かったと考えている。また、政治・歴史分野においてもその分野の本及び史跡が非常に多く存在しており、その情報を確認することは私にとって非常に大切な学びになったのではないかと考えている。もちろん、それを学ぶ為の下地となる知識を十分に蓄えておくことは必須である。その勉強を必ず日本で行って海外に渡航することで、より深い知識を海外留学で学ぶことができるのではないかと考える。

私のドイツ語に関しては、当初ドイツに渡航した際にはドイツ語力は非常に低く、実用に耐えうるものではなかった。しかしながら、現地で生活を行うことによってドイツ語力は飛躍的に伸びたと感じている。ドイツ語で大きく変化したことは、第一に話す能力である。最初期は話すのも覚束無いことが多く、生活にも支障があった。しかしながら、3ヶ月を経た後話されているドイツ語が理解できるようになった。また、半年を経た後にある程度実用に耐えるドイツ語が話すことができるようになった。

以上のことを踏まえ私は、留学は最低でも半年以上行くことを強く推奨する。

生活面に関しては、当初日本とドイツのギャップに戸惑うことが多くあった。スーパーなどの営業時間などの基本的な点から、挨拶、そのほか細かい生活習慣で戸惑うことが多かった。また、食生活も大きく変化し自身の体調も優れないことがあった。しかしながら、それも数ヶ月を経て問題なくなりドイツの生活になじむことができた。

ドイツの社会生活に馴染むうちに、ドイツ人の考え方、生き方をよくよく感じることはできたのは大きな収穫だと考えている。日本に住んでいて「海外」を意識することは非常に少ないように感じる。しかし、ヨーロッパ諸国は身近に「国外」が存在しており、そこから来る人々は「ドイツ人」とは異なる「外国人」である。そのような人々が行きかうドイツにおいて以下にドイツ人の文化や習慣を守りつつ外国人を融和させていくのか。という、生活観も見ることができた。

この11ヶ月の留学は非常に実りが多く、私の人生において得がたい経験となったのは間違いない。この経験が今後どのような場面で生きていくのかは分からない。しかし、私の人生になにか役に立てていきたいと決意し終わりとする。

今後留学する人へのアドバイス

最低でも半年以上の留学を強く推奨する。また、生活習慣などで戸惑うことがおそらく発生すると考えられるが、同じ留学生と話しながらか解決するのがいいのではないだろうか。私は、留学中に虫歯が発見され親知らずを4本抜くことを留学中に経験した。必ず、歯科検診を事前に行くことを強くお勧めする。

報告書記入日

2019年8月2日